

第5回

ITC三方よし新聞

「経営に役立つIT活用」を通じて、「中小企業」「支援者」「地域社会」の三方が笑顔になるためにはどうしたらよいか。ITC-Pro東京のITコーディネータ・連携会員が共に考えます。

「ITC-Pro東京」は、中小企業の経営課題の相談から IT活用による成果の実現までワンストップで支援できる ITコーディネータを核とした各分野の専門家ネットワークです。2019年8月現在、会員数が150名となりました。

ビジネス検討会や合宿等も開催され、自身の事業戦略、そして成長を目指す中小企業経営者に、我々ITコーディネータが、各々の専門性を連携させ組織的に支援できるためにはどうしたらよいかを考え続けています。

特集

「ロジカルさ」なくして「背面の恐怖」だけで人を動かそうとすると痛いしっぺ返しを食う 今なぜ、ロジカルシンキングが重要なのか



並木コンサルティングオフィス 代表
ITコーディネータ 中小企業診断士
並木 政之

ITコンサルタントとしてシステム企画構想・要件定義を専門領域とする。SEの能力開発としてロジカルシンキング・ファシリテーション研修も行う。元メーカーの生産管理担当なので製造業に明るい。鎌倉市在住。

私は、ITコンサルティングの傍ら、IT人材育成のためにヒューマンスキル系の研修も多く手掛けさせていただいています。ロジカルシンキング、ファシリテーション、問題解決、タイムマネジメント、プレゼンテーションなどの領域です。この中で私に限って言えば一番需要のある研修は「ロジカルシンキング」です。ネット検索すればロジカルシンキング研修は山のように出てきます。まさにレッドオーシャンの世界です。なぜ、多くの需要、引き合いがあるかといえばロジカルシンキングはビジネスで発揮される力(チカラ)のベーススキルであるからだと考えています。

中坊公平氏は人を動かす力として①正面の理②側面の情③背面の恐怖と説明されています。「正面の理」とは理詰めて人を納得させ動いてもらうこと。「側面の情」とは情に訴えて泣き落としで人に動いてもらうこと。「背面の恐怖」とは権限を背景に有無を言わず従わせ人に動いてもらうこと。マネジメントする人にとっては「正面の理」を実践することが一番望まれることは言うまでもないで

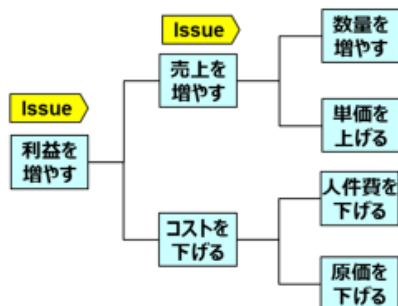
しょう。「正面の理」を通すためにロジカルシンキングを学ぶ必要があります。コンサルタントが経営者にアドバイスや提言を行う場合、そのクオリティの高さより「経営者に実践してもらえるか？」が重要なポイントになります。

ロジカルでない分析や提言は腹落ちしないですし、そのとおり実践されることはないでしょう。経営者でなくとも上司が部下に指示命令する場合でもこの「ロジカルさ」なくして「背面の恐怖」だけで人を動かそうとすると痛いしっぺ返しを食うことにもなります。つまるところ、組織運営というのは「人にいかにして動いてもらうか」がキーポイントになるわけでこの教育に普遍的な価値があるのだと思います。

さて、ロジカルシンキングの重要ファクターは①ロジックツリーと②MECE(ミーシー)です。ロジックツリーはイシュー(課題)をいくつかの構成要素(サブイシュー)に分解してさらにサブイシューを分解して構造化を図るものです。この構造化により課題全体を俯瞰することができバランスの取れた解決策を

見つけることができます。分解にあたってはMECE(漏れなくダブリなく)という概念に留意します。たとえば経営を考えるときにどのような種類の戦略を立てればよいかといえば「ヒト・モノ・カネ・情報」という4つの経営資源について戦略を立てる必要があるでしょう。この選定に抜け漏れがあると個々の課題を克服してもその上位の課題を克服することができません。目標必達を謳うのであれば達成のために必要な要素を洗い出し、それぞれが目標値をクリアできるよう施策を立てなくてはなりません。

「風が吹けば桶屋が儲かる」という諺はよく知られていますが「あなたが頑張れば会社は儲かる」という構造を示し、従業員に効率的に働いてもらうことは「働き方改革」が叫ばれている現在、とても重要なことだと思えます。





海外の「今」を共有

大連視察レポート



ITコーディネータ

黒川 明宣



大手会計ソフトメーカーで、中小企業向けパッケージソフト開発、パートナーサポートとアライアンス、情報システム部門を経験し2019年に独立。メーカー時代は自社会計ソフトと社外ソリューションの連携支援をやってきました。得意分野は、パッケージアプリケーションやITサービスの開発支援です。

はじめに

皆さまはソフトウェアの開発を社外のシステムインテグレーター（SI事業者）に開発委託することが多いかと思います。これらのSI事業者も多くは開発業務を「オフショア」として海外の開発会社に委託しておりその委託先にも様々な選択肢が存在します。

私は企業の皆さまにITを提供あるいは導入のアドバイスをする立場にありますが、個人であるがゆえに対応できるシステムの規模には限界があります。お客様の要望に合ったシステムを適正なコストで提供するために開発会社との協業を検討している中で、大連のシステム開発会社から招待を受け視察の機会を得ましたのでレポートします。

今後、新しくシステムの導入をお考えのお客様や、開発のみならずオフショアサービスとの連携をお考えのITCの皆さまに現在の大連の状況をお伝えできればと思います。

大連のご紹介

大連は中華人民共和国遼寧省の南部に位置する都市です。世界中からハイテク企業が集まり大連市の郊外に広大なハイテクエリアを構成しています。とりわけソフトウェア開発のオフショア拠点として交流がある日本企業も多いかと思います。

訪問したのは5月下旬。晴天で湿度も低く良い天候に恵まれました。大連はほぼ日本の仙台あたりの気候に近く、真夏でも気温は28℃程度で、さらに空気が乾燥しているのでカラッとした過ごしやすい気候だそうです。

日本と大連の関係を語るうえで、日本統治下の時代の話は避けられません。

あくまでもお聞きした方のご意見ではありますが、日本に統治された歴史の中でも日本軍の本部機構が大連にあり、大連そのものが日本軍による被害を大きく受けていないことが理由の一つであるそうです。そう言った状況から「親日」というより「嫌いではない」という土壌ができたのではないかと推察します。

その後、外国語教育やIT教育に力を入れ、現在の発展につながるようになります。



旅順港の周辺には当時の日本軍とロシア軍の激戦跡が残っています。

大連ソフトウェアパーク（DLSP）

大連ソフトパークは大連市の中心から西へ車で30分程度の距離にあり、ソフトウェア関連企業が集まる新興のエリアです。この地区一帯は「大連ハイテクゾーン」と呼ばれています。

「大連ソフトウェアパーク」そのものは民間の企業でハイテクゾーンの一部にすぎませんが同一視されている現地の方もおられるそうです。

枠で囲んだエリアの右から、第一期開発地区、第二期開発地区、第三期開発地区です。2019年の現在は近代的な高層ビルが立ち並び世界各国からIT関連企業が事務所を構えています。

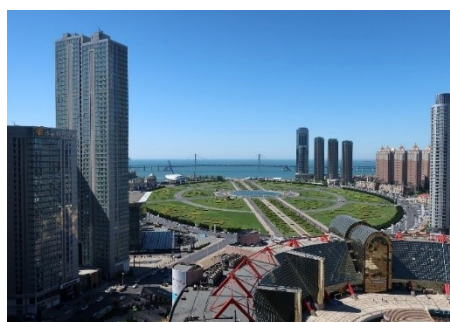
2006～8年くらいまではまだ広大な造成地が広がっているだけの地区だったそうです。

わずか12、3年で驚異的な発展を遂げています。中国の公的プロジェクトの威力はすさまじいと感じました。





大連ソフトパークの管理棟



訪問先企業の窓から星海広場を望む



市内には高層住宅が立ち並びます

大連ソフトウェアパークの規模

現在の企業数	約250社（微減中）
内日系企業は	約50社弱
技術者の人数	約7万人
家族関係者を含めると	約20万人

パーク内の大手企業はすでにオフショア拠点としてではなく、本社機能の大連事業所として活動されているとのこと。

例えば、アクセンチュアでは本社機能の出先機関、IBMでは研究部門などがおかれていています。

大連で日本と深い関わりを保ちながらIT産業が発展した理由は主に以下のようなものらしいです。

- ①日本統治下時代からの日本語のベースがある
その後の外国語学教育へつな갑니다
- ②地理的条件
港町で日本への交通が便利
- ③大連には特定の地域産業がなかった

特に、③は、当時の大連市長が「何か大連に地場産業つくろう」と検討する過程で「ITでいいんじゃない!？」との一声でITに決まったとか決まらなかったとか…（噂です）

大連の強みは

大連の大きな強みはコストだけではなくコミュニケーションです。大連の開発会社には日本語を使いこなすマネージャーがいます。また歴史的にも日本とかがわりが深く、日本企業との意思の疎通に関しては中国内のいずれの地域よりも優位にあります。

大連のIT産業の状況

現状の大連でもコスト的には西安や山東にはかなわないようで、コストを追求する国内外企業はこれらの地域にBPO、ITO先を求めようになっています。日本の顧客向けとしては日本国内の九州、沖縄、北海道も大連のライバルになり得るといわれていました。

大連の上海化の懸念

さらに、大連の上海化が懸念されます。

上海も一昔前は日本企業のオフショア先としてニーズがありましたが、現在は人件費等の高騰でコストメリットが出せない状況になってきました。技術者の単価は上昇し、大手企業への流出も顕著で、一層のハイテク化と上流工程に内容がシフトしています。

上海同様、大連も技術者の高価格化が進んでいるため、高額な給与を支払わないと優秀な技術者が確保できなくなる可能性を否定できません。

直接的な対策はできていませんが、大連ソフトウェアパークは民間企業でありながら、特例で公共政府機関と同様の各種優遇措置が受けられるとのこと、ソフトパーク会員企業やそこで働く社員の生活環境向上に努めているとのことでした。

アジアのITハブとしての大連

大連ソフトウェアパークでは、その立地条件と日本語をはじめとした語学力を生かして中国国内のハイテクエリアやシンガポールなど東南アジア諸国のハイテク企業との連携を進めています。

「大連が中国国内やアジアのIT企業と連携をしていくハブ拠点となればよいのでは？」

と質問をしてみました。大連市はそこまで考えが及んでいないようですが、パーク内企業の方々は今後の大連について真剣に考えているようです。

最後に

国内でよく耳にする中国におけるキャッシュレス普及のおはなしです。

聞いていた通り滞在期間中に現金をほとんど見かけませんでした。町中の買い物、施設への入場、飲食店での支払いなどほとんどスマートフォンで可能です。初日に案内していただいたニューランドシステムの李マネージャーの話によると、大連市内ではコンビニのローソンが増えているそうで、店舗によっては各種のクレジットカードや日本の交通系カード（Suica）も使えると言われていました。しかし、宿泊していたホテルのロビー階にもローソンがあったので店員さんに確認しましたが、手持ちのカードはMasterもVISAも使えませんでした。使えるカードは中国国内の銀聯カード、電子マネーはWeChat Payあたりかと思います。確かに多くの場面で「キャッシュレス」ですが、国内に限定された「普及」だと思えます。

今回ご協力いただいた方
大連ニューランドシステム株式会社
代表取締役社長 劉 勁伯 様
大連ソフトウェアパーク株式会社
高級顧問 谷口 恵 様

ありがとうございました。

経済産業省推進資格ITコーディネータ（ITC）とは

2001年、通商産業省による国家プロジェクトの一環としてITコーディネータ資格制度は設けられました。現在、経済産業省の推進資格として、約6500名の資格保有者が全国各地で活動しています。

ITコーディネータは、真に経営に役立つIT利活用に向け、経営者の立場に立った助言・支援を行い、IT経営を実現する人材です。経営革新・業務改革ニーズに合致する戦略的なIT利活用の推進人材として新たな役割を担います。

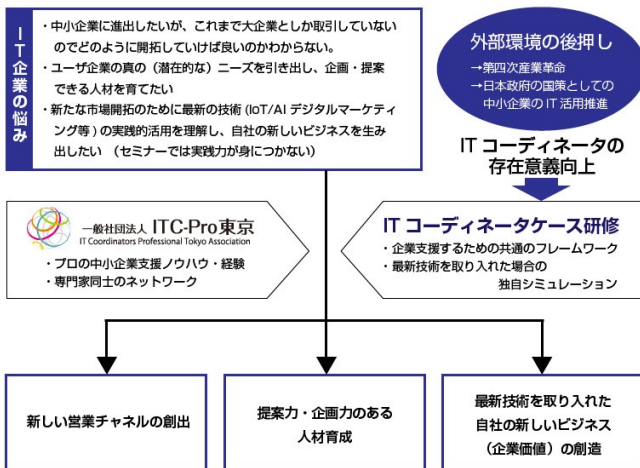


ITC-Pro東京が開催するケース研修でITコーディネータ資格を取得するメリット

中小企業支援のプロ集団が、
経営者視点で提案・実現できるITコーディネータを育成します。

ITC-Pro東京を通じて、
ITコーディネータ資格を最大限にビジネスに活かします。

IoT/AI等最新の技術を取り入れた
独自（アレンジ）カリキュラムを設けています。





ニュース&トピックス

今年度 第1回ビジネス検討会開催

令和元年第1回目のITC-Pro東京ビジネス検討会。入会くださった皆さまご自身のビジネス展開・状況、及びITC-Pro東京との連携について提案、本音の意見交換が行われました。

最後には、ITC-Pro東北立ち上げ宣言が飛び出し、一同大いに盛り上がりました！

▼今後のビジネス検討会スケジュール▼

第1回目：令和元年7月21日（日）**終了**

第2回目：令和元年9月14日（土）

第3回目：令和元年12月7日（土）

第4回目：令和2年2月22日（土）



中小企業経営者が求めているITC像の本音に迫る

～ 実践派ITCと中小企業経営者が集まって研鑽し信頼できる仲間を増やそう ～

ITコーディネータ X 中小企業経営者 in 軽井沢 8/2～3 長野・軽井沢で夏合宿開催！

ITC-Pro中部を立ち上げ予定の長野ITCの皆さまにコーディネートいただき、中小企業経営者とそれぞれの専門分野を持つITコーディネータが集まり、経営者と共に本音で語り合い、これからのITC像を描くことができました。2日目の研修終了後は、高見さんのご自宅のお庭で大人のバーベキューを堪能♡皆さまに「ぜひ次回も参加したい！」とお言葉をいただき、新しい連携プロジェクトも生まれました。長野ITコーディネータの皆さまの暖かいおもてなしに感謝！本当にありがとうございました！！



<主な合宿内容>

1. 経営者からの

- 1) IT利用した業務改善事例
- 2) 新規事業の立上げ事例
- 3) 長野のITコーディネータからの地域での活動
- 4) 在宅勤務の活用

2. ITコーディネータ仲間からの

- 1) 中小企業の原価管理のコツ
- 2) 企業ブランドの創り方

のプレゼン&ディスカッション、夜は懇親会もあり、大変中身の濃い内容でした。

